

# OPINION

昨年10月から実施された国際協力機構（JICA）研修コース「グローバル市場における輸出振興・マーケティング戦略」（運営、リーム中産連）の修了者による記事を掲載する（研修は2回のフォローアップを1月までに行い、

## ナビゲーター

全日程を無事終了。注）。

私はマラウイのチエチヨです。ふるさとへ、いつだって懐かしい場所です。しかしさまざまな理由から、遠く離れた地にもふるさとのように感じられる場所がある。

それは、その土地の人々の温かさによるのかも知れない。

## 日本への期待 世界各地から

其 164

# サヨナラ、日本。日本での学びから

い。故郷で慣れ親しんだ生活様式に似ているからかもしれない。いかなる理由であれ、それが私たちの日本滞在中に感じた感覚だ。名古屋は私たちのふるさと。名古屋での29日間は学びにつながったことが多く、情報豊かで刺激的だった。ここは私たちの第一の故郷だ（「マサニ ダイニ ノ イエ デス」）。

## マラウイから(上)

振り返れば、昨年10月マラウイ政府はJICA研修プログラムの、輸出促進とマーケティング戦略の1カ月の短期研修に、ソコさんと私を日本

に派遣した。2人のマラウイ国家公務員は、母国で零細・中小企業の発展と成長を促進する使命を持つ政府機関「中小企業開発機構（SMED I）」に勤務する。

2人とも初めての日本への旅で、出発前は懐疑と不安が頭によぎった。その不安で夜は眠れないほどだった。マラウイのJICA現地事務所から日本について可能なかぎりの説明を受け、不安は和らいでいった。それでも未知の国、未知の大陸、そして新たな文化、別の言語への旅という不安が消えたわけではなかった。

成田国際空港到着後、整備された巨大な空港内を迷うことなく移動できたのは、JICA職員がわれわれの到着を待ち、翌日の名古屋往きの便に備えて、一晩宿泊するホテルへ案内してくれたおかげである。名古屋往きの国内線では同乗客の親切さが、JICA A中部で待ち構えているであろう「おもてなし」の心を感じさせてくれた。

JICA中部は素晴らしい文化交流センターで、日本語や文化講座そして豊かな日本の食文化を反映した食事を提供してくれた。キリスト教徒であるわれわれのために賛美歌コンサートも企画してくれた。驚きと喜びを感じたのは、歌手が英語と日本語で見事に歌い上げたことだ。そして踊りに誘ってくれ、私は歌い、踊った。

【M・チチヨ、ソコ・クリフォード、リーム中産連】  
（月曜日に掲載）